

守屋てるひこ 新たななる挑戦

人口増に必須の都市計画

集中連載 ⑤

1999年に小田原市の人口は20万人を超えていたが、現在は約19万人と1万人以上減少しています。全国1747の市町村のうち、238

(13.6%)は人口が増加中(東洋経済調べ)。大都市だけでなく、県内でも藤沢市、海老名市、開成町なども増えています。人口の増減には自然増減(死亡数と出生数の差)、社会増減(転出数と転入数の差)があり、小田原市はいずれも減少しています。かつて転出人口が全国で最多だった横須賀

市も同じような状況です。この20年間で小田原市は5.3%、横須賀市は8.4%人口が減少。一方、藤沢市は15.1%、海老名市は14.0%増加。藤沢市は横須賀市を抜き、政令市に次ぐ県内第4の都市になりました。

「人口減少社会だから

仕方がない」といった声も聞こえますが、県内でも成果を出している市町村があります。藤沢、海老名両市の共通点は、しっかりとした都市政策を実施していること。やり方次第では人を呼び込めるのです。

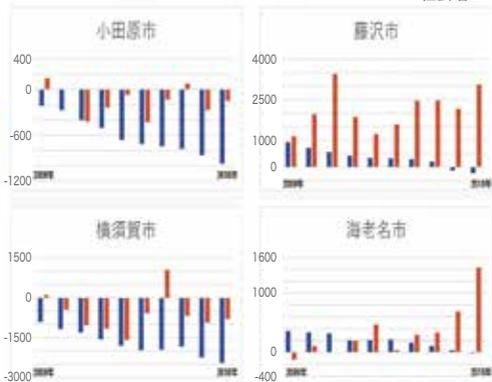
農業では従事者が減り、担い手不足や耕作放

棄地の課題が増えています。このままでは教育や医療、災害対策など、生活の質を維持することが困難になります。小田原の恵まれた環境を活かし、人口増加政策を実施すべきです。

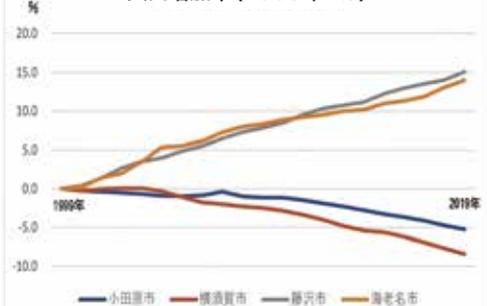


直近10年間の自然増・社会増

自然増
社会増



人口増加率(1999年=0)



守屋てるひこ後援会

〒250-0042 小田原市荻窪317-1
イセトヨビル2階

☎ 0465-43-9918

☎ 0465-43-9917

✉ info@moriya-teruhiko.com

🌐 http://moriya-teruhiko.com

